

◆『家庭・学校・地域が連携した子どもの生活習慣づくりの取組』

食卓が変われば家庭が変わる～父親による子どもの生活習慣づくり～ — “読谷村食育キャンペーンネットワーク” —

沖縄県読谷村社会教育委員連絡協議会
沖縄県読谷村教育委員会

1 読谷村について

読谷村は、那覇から北に28km、東シナ海に面した沖縄本島の半島に位置し、人口約3万9千人余、小学校5校・中学校2校（児童生徒数約5千人）の規模の村である。

本村の先人たちは、琉球王朝時代、中国（明）との進貢貿易をとおして栄えてきた。

それらは今日、読谷山花織・焼物などの伝統工芸品や、村内各地に残る民俗芸能として伝承され、読谷の大地に深く根ざしている。

その先人たちの残した自然や風土・歴史・文化は、村民にとって地域に対する自信と勇気、夢と誇りであり、この想いを未来に継承していくため、村づくりの基本理念を「平和共存・文化継承・環境保全・健康増進・共生持続」とし、「ゆたさある（豊かな）風水、優る肝心、咲き誇る文化や、健康の村」を目指して、取組を行っている。



2 ～読谷村食育キャンペーンネットワーク～

(1) 目的

“子ども達の心身の健全な成長と、基礎的基本的な学力の定着は、規則正しい食生活と生活習慣から”を目的に、読谷村PTA連合会を中心として、読谷村学力向上対策推進協議会・読谷村青少年健全育成協議会や、行政機関として教育委員会（学校教育課・生涯学習課）・福祉保健部（健康環境課・子ども未来課）が連携し、その目的達成に向けたキャンペーンを展開する。

(2) 経緯

平成18年度読谷村PTA連合会は、「早ね・早おき・朝ごはん」の周知と家庭での実践の定着を目標に小学校の入学式に、あたたかい味噌汁を参加された保護者に振る舞い、“しっかり朝ごはんを食べること（食べさせること）の大切さ”をアピールする活動を行う。

さらに同年度、読谷村食育キャンペーンネットワークを結成し、「早ね・早おき・朝ごはん」を活動のキャッチフレーズに、まず乱れつつある子ども達の生活習慣の改善を目標に各関係機関が連携して実践活動を展開していくことを共通目標とした、ネットワークを構築。

(3) ～家庭・学校・地域が連携した子どもの生活習慣づくり～

① 小学校の入学式で温かい手作り味噌汁の提供

“しっかり朝ごはんを食べること（食べさせること）の大切さ”のひとつとして、学校生活での子ども達の落ち着いた学習態度や集中力の形成には、家庭生活での食生活の乱れが、少なからず影響していることをアピールし、そのためにも朝の食事時間から温かい一杯の味噌汁を食べることを始めようという想いをこめて、毎年入学式に味噌汁を提供するデモンストラクションを行っている。村内全小学校（5校）で実施。

② 運動会での呼びかけ

村内小中学校の運動会の昼食時間、お弁当を囲む家族の方々に、「早ね・早おき・朝ごはん」の周知活動として、これまでポケットティッシュの配布やうちの配布を行っている。各小中学校のPTAの方々を中心に行政担当部局職員との協力で実施している。

③ 企業と連携

これまで小中学校のPTA活動をとおして、食の大切さや、生活習慣の見直しについて、その周知と定着の徹底を図ってきた。

平成21年度、その活動を村全体で盛り上げていくための足がかりとして、村内民間企業との連携を目標に新たな活動として、各小中学校に配布してきた“うちわ”に協力企業の広告を掲載し、村内全小中学校の運動会、公立保育所の運動会、民間保育所への配布、その他村内各イベントでの配布を行う。今後は、協力企業の本キャンペーンへの協力が、企業イメージの向上と販売促進といったPRにつながることで、さまざまな活動の展開が図れると考える。

3 ～父親による子どもの生活習慣づくり～

(1) 仕事優先の生活（第1ステージ）

- ① 幸せな家庭は収入が多くあること＝夫婦共働き＝仕事優先
- ② 夕食はファーストフードの日々
- ③ 2005年4月、23年間勤めた銀行を退職

(2) 主夫へ転職～家族中心の生活～（第2ステージ）

- ① 今年、主夫歴5年
- ② 朝ごはん、妻と娘の弁当、昼食、夕食、掃除、洗濯、買い物、PTA活動・・・

「主婦の皆さん
御苦勞様です。」



(3) 食卓が変われば家庭が変わる～「もやし」で情報共有～

- ① 家族のコミュニケーションに「もやし」のひげとりを通して
- ② 明日の弁当のおかず作りで「ゆんたく」（おしゃべり）
- ③ 毎日の食事を大切にする。
- ④ 家族の笑顔が集まる食卓＝「今日の夕飯は何？」



(4) 自分の夢・家族の夢（第3ステージへ）

- ① 年2回の家族総会
- ② 家族の夢

“カフェ＝コハ” 始動

予算決算、出来事反省、
次年度の夢・予算



4 成果と課題（① 読谷村：② 古波倉家）

(1) 成果

- ① 「早ね・早おき・朝ごはん」の趣旨目的が、各小中学校PTA活動の日常的な活動として各家庭へ浸透しつつある。
 - ・ 読谷村PTA連合会を中心とした活動が村行政機関の連携協力体制の構築につながった。
 - ・ 本ネットワークに村内企業が参加できるきっかけづくりができた。
- ② 銀行の支店長の地位と収入は失ったが家族の絆・家族の夢を語る場所を得た。
 - ・ 何が起きても「家族で相談」すればどんなことでも解決できることが分かった。

(2) 課題

- ① 今回のネットワーク活動をとおして、教育委員会と福祉保健部局の連携が図られつつあるが、地産地消をとおした食の安全を目指す農業推進課など、農産業部局との連携構築が課題。
 - ・ 読谷村PTA連合会だけでなく、その他の団体との連携の仕組みづくり。
 - ・ 古波倉家以外での実践活動の充実支援。
 - ・ 読谷村商工会をとおした全村的取組への展開。
 - ・ 村役場職員への活動の周知徹底（職員の家庭から実践）。
- ② まだ、まだ夢なかば・・・どんなことが起こるか分からない。
 - ・ 古波倉家から隣近所へ、そして地域社会への発信！！

5 問い合わせ先

沖縄県読谷村教育委員会生涯学習振興課

TEL：098-982-9231

FAX：098-982-9229